

# 東秩父俳句会の皆さん ～長い間ありがとうございました～

平成28年1月9日（広報掲載は平成28年1月号）をもちまして、東秩父俳句会が解散となりました。

東秩父俳句会は昭和31年に発足、昭和55年より広報東ちちぶの文芸欄に掲載を開始し、約35年という長い間お世話になりました。



▲東秩父俳句会の皆さん

会員の皆さんにお話を聞くと当時を振り返り、たくさんの思い出が駆け巡るとおっしゃっていました。多い時で約20人の会員がいた時期もあり、盛んなときはいろいろな所に俳句を作りに行ったそうです。「毎月、広報に俳句を載せることは重荷ではありませんでしたか？」とお聴きすると「作らなくてはいけないという思いから、毎月楽しく作れました。なににより、広報を見てくださった方に『毎月楽しみにしている』と言ってもらったことがあり、そこが励みになっていました。」と一人の方がおっしゃると会員の皆さん全員うなずき、表情は優しくなっていました。

今回の解散にあたり、東秩父俳句会副会長の富田キミさん（安戸）より代表してメッセージをいただきましたのでご紹介します。



▲多くの句を生み出し、文芸欄を飾っていただきました。



▲東秩父村合併30年には作品集を出版、記念に残るものでした。

## ひだまり

また今年もひだまりに寒水仙が咲き、季節の流れの早さを感じます。私が句会に入り数十年が過ぎました。美しい自然のなかで俳句の会はひらかれ、古き伝統を受け継ぎ新しい文化の位置を築きあげた、長い長い思い出のつまった俳句会です。

合併によって「東秩父村」が誕生した年に、この会も「東秩父俳句会」となり、広報の文芸欄に掲載することで多くの皆さんに読んでいただきました。

仲間と語り合った俳句会：昭和50年後半には待望の夢が叶い合同句集ができ、また、和紙の里文化フェスティバルには会員の句を短冊に書いて出品することができました。そして、浄蓮寺をお借りして皆で協力して開いた俳句大会はたくさんの方が集まったことが思い出です。

会の仲間とともに歩いた俳句の道は人生の思い出を作ることができました。

この度、東秩父俳句会を閉じることにになりましたが、5名の会長によって受け継がれた歴史ある会なので本当に残念です。

次世代の方にぜひ俳句に思いをよせてほしいです。そして新たな会ができることを期待しています。

お世話になった役場の皆さま、広報の俳句をお読みいただいたたくさんの方々、ありがとうございました。

最後になりましたが、昔、紙すぎの家に生まれを思い出を一句詠んで締めくくりにしたいと思います。

榎蒸すほた火の映る土間障子

平成28年1月9日

東秩父俳句会副会長 富田 キミ

## ご寄付ありがとうございました ～ふるさと応援寄付金～

- 吉田照滋さまより10万円をご寄付いただきました。
- 松本實藏さまより5万円をご寄付いただきました。

